



2018年1月31日

Vol.108

中国

中国「A株市場」と「B株市場」の違いは？

今や、世界第2位の経済規模(名目GDPベース)に成長した中国は、相対的に高い経済成長率を維持していることもあり、多くの投資家が注目している国の1つです。

中国には、中国本土市場と呼ばれる上海証券取引所、深セン証券取引所と、香港市場と呼ばれる香港証券取引所があります。このうち、上海証券取引所と深セン証券取引所は、それぞれ「A株市場」と「B株市場」に分けられています。

そこで今回は、中国の株式市場の特色について押さえていただきたいと思います。





コールセンターからの小さなよみもの

	上海証券取引所		深セン証券取引所	
種類	A株	B株	A株	B株
決済通貨	人民元	米ドル	人民元	香港ドル
上場銘柄数	1,348	52	2,033	49
時価総額	約554兆円	約1.8兆円	約408兆円	約1.4兆円

(2017年9月末現在)

かつてA株市場は、中国国内の投資家だけ取引が可能で、B株市場は外国人投資家だけが取引可能な市場でした。A株市場には業界最大手の企業やITベンチャー企業など、多種多様な企業が上場しています。一方B株市場は、外国人投資家に向けて創設された市場で、投資できる銘柄は限られていました。しかし、中国政府は市場の国際化や活性化を促す狙いとして、外国人からの資金流入を増大させるため、段階的に市場の開放を進めています。2002年の適格海外機関投資家(QFII)制度、2011年の人民元適格海外機関投資家(RQFII)制度の導入により、中国政府の認可を受けた外国人投資家がA株市場で取引できるようになりました。投資できるのは、投資家ごとに取得した制限枠の範囲内などの規制はありながらも、従来投資することができなかった多くのA株市場上場銘柄へ投資の幅を広げることができるようになりました。さらに、2014年には上海市場と香港市場の相互取引(ストック・コネクト)ができる「滬港通(こうこうつう)」、2016年には、深セン市場と香港市場の相互取引「深港通(しんこうつう)」が開始され、外国人投資家が香港市場を通じて中国本土のA株市場に直接投資を行なうことが可能になりました。

このように段階的に市場開放が行なわれたことで、2017年6月、新興国株式の代表的な指数である「MSCI新興国株式指数」に中国A株が採用されることが発表されました(実際に採用されるのは、2018年6月からの予定)。当指数におけるA株の比率は1%以下に留まる見込みですが、世界の多くの機関投資家がベンチマークとして用いている指数であるため、機関投資家による資金流入が期待できます。また、今後市場の整備がさらに進むことで指数への採用比率が拡大すれば、中国市場の中長期的な資金流入を支える要因になると考えられます。

上海市場は、国営企業などオールドエコノミーの企業が多く上場している一方、深セン市場はITやヘルスケア関連などのニューエコノミーの民間企業といった高い成長が期待できる銘柄が数多く上場しています。中国の経済成長ペースは緩やかに減速するとみられていますが、構造改革が進む中、新興産業を中心に利益成長が拡大している企業も多くあります。様々な銘柄に投資できるようになった中国市場に、今後注目してみたいはいかがでしょうか。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

□当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託の仕組みについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。□投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。